

# 第5章 現在の和歌山と将来



## 交通の発展

時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	江戸時代
	明治・大正・昭和(戦前)時代
昭和(戦後)・平成時代	

### 道路交通の発展

和歌山県は、太平洋に大きく突き出した紀伊半島に位置しており、また紀伊山地が半島全体にひろがっています。その山並みが交通の発展をさまたげてきました。そのため、日本各地域と行き来するための道路を整えることが重要でした。

近畿自動車道紀勢線は、大阪府松原市を起点として、和歌山市および田辺市を経由し三重県多気町に至る延長336kmの高速自動車国道です。そのうち近畿自動車道が2007(平成19)年に田辺 I C<sup>\*1</sup>まで開通し、海南 I Cと有田 I C間では片側2車線化のための新しいトンネル工事が進められています。また紀南では那智勝浦町と新宮市を結ぶ那智勝浦新宮道路が開通しました。

京奈和自動車道は京都、奈良、和歌山を結ぶ延長120kmの幹線道路として計画され、各府県でそれぞれ工事が進められていますが、和歌山県では2007年から高野口インターチェンジから奈良県五條市まで通行できるようになりました。

1980(昭和55)年に開通した高野龍神スカイラインは2003年に無料化され、一般国道371号線として和歌山県の尾根を通り橋本市から田辺市龍神を経由して新宮市を結ぶ道路として利用されています。この



湯浅御坊道路



那智勝浦新宮道路

他に紀伊半島を一周する国道42号線や奈良県五條市から新宮市を南北に通る国道168号線が通じています。

これらの南北に結ぶ3つの国道と近畿自動車道と東西に結ぶ五つの国道が、紀伊山地の交通網として整備されてきています。これらの国道は県道や市町村道などによって結ばれて、県内の30市町村が網の目のようにつながれ、和歌山県内の経済や文化の発展がはかられています。

一方、JR紀勢本線も特急くろしおや

\*1 有田 I Cと御坊 I C間は一般有料道路湯浅御坊道路とよばれている。

オーシャンアローが新大阪駅に乗り入れ、新幹線とつながりました。

## 港や空港の整備

港は船で旅行する人が乗降し、貨物の積みおろしをしたり、船が航海するのに必要な飲料・燃料・水などを補給したりする場所です。

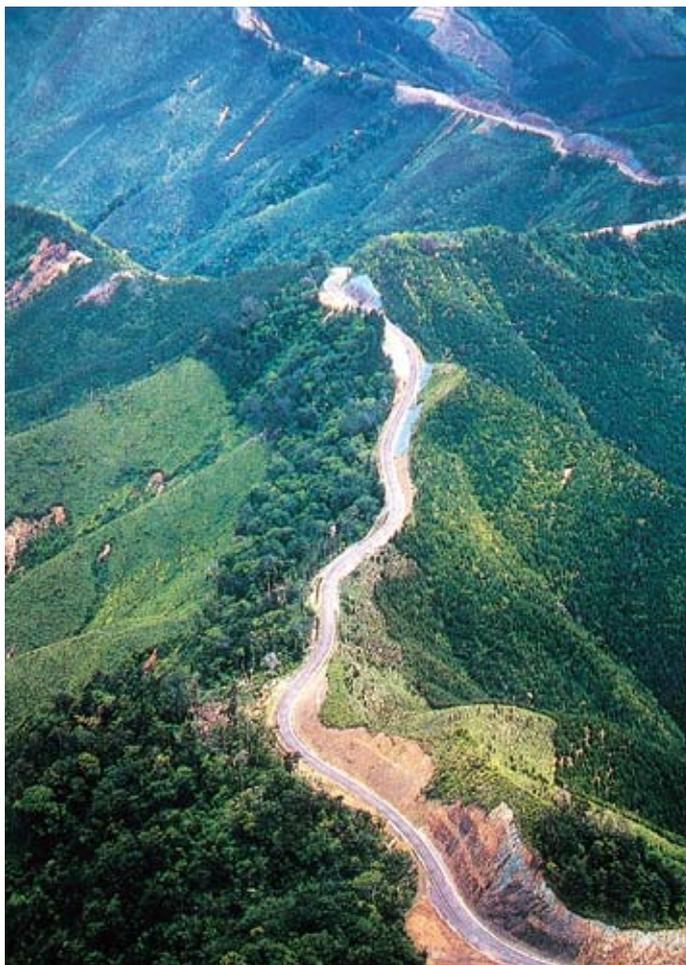
和歌山下津港は和歌山北港区、本港区、和歌浦・海南港区、下津港区、有田港区の広い範囲にまたがる港湾で1965年々に特定重要港湾に指定されています。徳島港との間にフェリー航路が開設され、輸入木材や鉄鋼業、石油精製業などの企業の原材料を取り扱う物流拠点になっています。和歌山本港区では、1995年から韓国釜山港とを結ぶ定期コンテナ航路が開設され、カントリークレーンを備えた機能的な国際ターミナルの整備もできました。

1983年、重要港湾に指定された日高港では、塩屋地区に大型船が入港できる耐震性を強化した岸壁などを整備して2004年から使われるようになり、今では大型客船や外国貨物船も入港しています。

地方港湾の新宮港は紀南地方唯一の外国貿易を行うことができる港湾で、2004年に高野・熊野が世界遺産に登録されたことで、クルーズ船の寄港がふえています。

また県内で唯一の空港、南紀白浜空港は1968年に1,200mの滑走路をもつ県営空港として開港し、さらに1996年には、ジェット機の発着ができる空港となりました。2,000年には滑走路が2,000mに延長され、年間200日東京便が3往復運航されています。

1994年に開港した関西国際空港へはシャトルバスや鉄道によって結ばれ、和歌山県と世界の距離は一段と短くなりました。



高野龍神スカイライン



オーシャンアロー号



南紀白浜空港

\* 1 港のことを法律用語で港湾とよぶ。法律的には一般の港湾は港湾法で漁港は漁港法で規定されている。

\* 2 港湾は重要港湾と地方港湾とに分けられ、重要港湾のうち、特に国として必要と認めたものを特定重要港湾としている。(全国に23ある)なお、和歌山県の地方港湾は13ある。